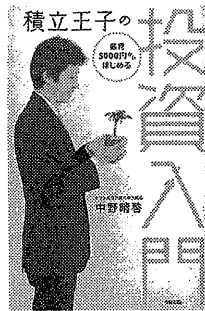


積立王子の投資入門

中野 晴啓 著



中経出版
(1470円)

独立系投信会社8社の中でも、とりわけ若いセゾン投信の中野晴啓社長が流行りの「王子」になった。版元が積立王子と銘打つだけに、なかなかイケメンでもある。

大手証券や銀行に比べ腕力がない直販投信では、若年層に長期投資家になってもらうことが力になる。「お金を持っている層を見る大手証券や銀行が相手にしない人達」に向け、トップ自ら

本棚

持たざる層をいざなう

全国を飛び回りセミナーや勉強会を開く。その持たざる層をいざなう入門書。時間が味方の長期投資で自分のお金を経済成長に役立て、世の中を変えると同時に着実に果実を増やそうという。

長期保有型投信を長距離列車に例えた「セゾン号」は07年に発進して以来、サブプライム問題やリーマン・ショック、金融危機など

も見過ごせない。ただ、「とりあえず貯金」の意識は根深く、地道にその壁を撤廃するしかない。

本物の長期投資家になろう、という呼びかけは、短期売買で利益をあげる既存の金融機関へのアンチテーゼでもある。投資購入は1万円からがほとんどだが、セゾン投信の積立投資は毎月5000円から設定できる。株価が上げても下げても喜べる心の平穏

またの難局に見舞われた。だが列車乗客数は4万人を超え、運用資産残高は先月400億円を突破した。安定的な資金流入が続くファンドになった今、直販投信を資産形成の一カテゴリーとして認識してもらい資金規模感を高めたいという。大震災への支援然り、個人の力は僅かでも結集すれば大きなうねりが生まれる。